

〔報告〕

「生活歴の聞きとり体験」による対象理解に関する学びの内容

森 仁 実 松 下 光 子 坪 内 美 奈 米 増 直 美
菱 田 一 恵 大 井 靖 子 北 山 三 津 子

What Students Have Learned through Interview of One Adult's Life History?

Hitomi Mori, Mitsuko Matsushita, Mina Tsubouchi, Naomi Yonemasu, Kazue Hishida,
Yasuko Ohi, and Mitsuko Kitayama

I. はじめに

筆者らは、平成12年度地域基礎看護方法7の授業準備をするため、授業を通して把握した学生の発言や記述をもとに、学生の準備状況を検討する時間を持った。その際、一部の学生の中に、看護の対象である人を、保護が必要な弱者とする見方や、問題探しをするような見方があるという懸念が表明された。看護ケアの質は、基本的に、病人についての看護婦の知覚と、人間についての信念によって決定づけられる¹⁾といわれており、対象の捉え方によって看護のあり方は大きく変わってしまう。筆者らは、看護の前提となる人間の見方として、「人は、問題がある人や患者である前に、ひとりの人間である」ことを、学生に実感してもらいたいと考えた。

そこで、「ひとりの大人から生活歴を聞きとる体験」(以下、聞きとり体験と記す。)を夏期休暇中の課題とすることを決定した。しかし、聞きとり体験が上記のような人間の捉え方を可能にする学習であるという確信はなかった。ただ、教員が自らの保健婦体験を振り返った時、対象の生活歴を知ることにより、人間のたくましさや尊さを感じる経験がよくあったことは確かだった。

その後、筆者は、教育能力開発委員会が企画した平成13年度の教育能力開発ワークショップで、「体験学習について考える」グループに参加し、前述の教育活動を紹介する機会を得た。その際、他者の関与が必要な体験学習では、善意の第三者が不利益を被る可能性が否定できないことから、実施にあたっては、体験の必要性について十分に吟味すべきことが、教育における倫理の問題と

して議論されていることを知った。聞きとり体験を企画した段階では、そのような観点からの検討は不十分であった。また、聞きとり体験の学習成果についても、レポートや授業感想メモから、印象としては把握していたが、十分な確認はしていなかった。ワークショップをきっかけに上記のことを再認識させられたことから、教員として、学習成果を確認する責任があると考えた。

そこで、聞きとり体験とそれを素材にした授業によって、人間の見方・対象理解について、学生にどのような学びがあったのか確認したいと考えた。

II. 目的

本研究は、聞きとり体験とその後の授業によって、対象理解のどのような側面の学びがみられたのかを明らかにすると共に、聞きとり体験の意義を考えることを目的とする。

III. 方法

1. 対象

- 1) 本学1年次学生が提出した、聞きとり体験実施後の課題レポート(以下、課題レポートと記す。) 79部
- 2) 授業終了直後の感想メモ(A5版1枚:以下、感想メモと記す。) 77枚

学生に対して、研究の目的・意義を説明し、課題レポートと感想メモを分析対象とすること、データの匿名性を保障することを約束し、了解と意義ある場合の申し出を求めた。学生から意義の申し出はなかった。

2. 聞きとり体験を素材にした授業の概要

方法7の1回目の授業において、看護援助の基盤となる人間の見方について理解を深めることを授業目的として実施した。授業目的・目標は、担当教員全員で検討し、その過程でそれぞれの意味を共有した。授業当日は、課題レポートをもとに、学生が各々の体験を報告し合うことを中心に実施した。学生を20人ずつ4グループに分けて、各グループの具体的な授業展開については各教員の裁量に任せた。なお、授業目的・目標、学生に提示した課題の内容は表1に示した。

表1 聞きとり体験を事前課題とした授業の概要

授業目的	
看護援助の基盤となる人間の見方について理解を深める。	
授業目標	
1. 生活している人として人を捉えることについて考える。	
2. 可能性や力をもつ存在として人を捉えることについて考える。	
学生に提示した課題の内容	
課題：人をより深く理解することに挑戦する。	
具体的には、ひとりの大人を対象に、その人の生活歴を聞きとり、報告する。	
レポートには、以下の内容を区別して記述すること。	
1. 話を聞いた相手の性別・年齢	
2. 「その人が、これまでどんな生活をして、どんな風に生きてきたか」について聞きとった事実	
3. 聞き取りをして、感じたこと・考えたこと	

3. 分析方法

1) 課題レポートと授業当日の情報収集により、学生が面接した対象の性別・年齢・続柄を調べる。

2) 課題レポートの「聞き取りをして、感じたこと・考えたこと」の記述から、その意味内容を読みとり、対象理解にかかわる学びが含まれるものについて、まとまりのある意味内容ごとに1件として、その内容を分類整理する。

3) 授業直後の感想メモの「人を深く理解することについて感じたこと・考えたこと」の記述から、その意味内容を読みとり、まとまりのある意味内容を1件として、その内容を分類整理する。

なお、上記2)3)によるデータの抽出と内容分類は、まず、筆者が行い、それをもとに、共同研究者間で再検討した。

IV. 結果

1. 学生が面接した対象者の属性

表2に示した。続柄不明が多いのは、学生に記述を求めなかったためである。

表2 学生が面接した対象者の属性

年齢	女					男				
	計	母親	祖母	家族以外	不明	計	父親	祖父	家族以外	不明
10代						1				1
20代	4	1	1	1	1	2			1	1
30代	1			1						
40代	30	14			16	7	5			2
50代	4	2			2	10	6			4
60代	2		1		1	1				1
70代	6		3		3	4		3		1
80代	5		3		2	2		1		1
計	52	17	8	2	25	27	11	4	1	11

2. 課題レポートにおける学びについて

表3に示すように、対象理解にかかわる学びは、79名中76名にみられ、全部で107件あった。その内容は、4項目22細項目に分類できた。

最も多い項目は、「1. 面接対象者に関すること」の49件43名で、全体のほぼ半数を占めており、6細項目に分類できた。この項目の学びは、すべて、学生が面接した対象者のこととして記述したものであった。最も多かった細項目は、「対象者はすごい、素晴らしい」で、対象者の人間としての力や輝きを感じ、尊敬の念を感じたものであった。次に多かった細項目は、「時代や環境が対象者の人生に影響する」で、これは、対象者の生活が、家庭環境や周囲の人々、社会情勢などの影響を受けていることを実感したもので、「対象者の生きてきた時代と今の社会との違い」を痛感していた。「対象者の行動や考え方の背景に過去の体験がある」「不幸や困難を受けとめ、乗り越えてきたから、今のその人がある」の2細項目は、過去とのつながりをもって対象者の今を捉えるものであった。「対象者の新たな一面の発見」は、対象理解の深まりに寄与するものであった。

次に多い項目は、「2. 人間一般に関すること」29件22名、6細項目で、「これまでの人生が人の考え方やあり方に影響する」「人は時代や環境の影響を受けて生きている」については、前述1.の細項目を人間一般に括

大させた内容となっていた。「人は年を重ねることにより成長していく」は、発達していく存在として人間を捉えるものであった。少数ではあるが、「人はこの世に二つとない固有の人生を歩んでいる」「人はそれぞれの人生を懸命に生きている」がみられ、これは、人の独自性や生きることの尊さを実感する学びであった。

「3. 援助に関すること」の細項目には、「固有の人生を歩む人として尊重する」「人を外見で判断してはいけない」がみられ、人を理解するために必要な態度と感じていた。他に、「今だけでなく過去を知ることの大切さ」「生活歴を把握する意義」がみられ、これは、対象の過去に関心を向ける大切さに気づいたものであった。「生活歴の聞き方に関する気づき」「話を聞くことの必要性」「どこまで踏み込んでよいのか戸惑った」の3細項目は、生活歴を聞き出す方法にかかわることだった。

少数ではあるが、「4. 学生自身への影響」13件12名、3細項目が抽出された。いずれも、対象者にかかわることにより、一個の人間である学生自身にもたらされた学びであった。

3. 授業直後の感想メモにおける学びについて

表4に示すように、77名中75名にみられ、全部で124件あった。その内容は5項目22細項目に分けられた。

最も多い項目は、「1. 対象理解の方法に関すること」50件43名で、全体のほぼ半数を占め、8細項目に分類できた。最も多い細項目は、「対象を受け入れ尊重する」で、「人を外見で判断してはいけない」「自分の価値観や枠を基準にしてはいけない」「自分の視野を広げたい」の内容を含み、援助者として対象に向かう時の態度や構えにかかわる学びがみられた。次に多い細項目は、「生活歴を把握する意義について」で、「対象の行動や価値観が理解しやすくなる」「その人の可能性を見つける糸口になる」など、生活歴を把握する意義を具体的に感じたものがみられた。この他に、「対象が生きてきた時代や環境」「過去の体験やその時の思い」など、過去を知ること、「今だけを見るのではなく、これまでの過程を知る」「人の行動・価値観・考え方の裏にある人生体験を知る」など、過去とのつながりで現在を捉えることを学んでいた。一方、「5. 対象理解の難しさ・大変さ」を15名が感じており、課題レポートの「どこまで踏み込んでいいのか戸惑った」1名と比べて、著しく増えてい

た。

次に多い項目は、「2. 援助の対象である人について」37件34名で、6細項目に分類できた。最も多かった細項目は、「人は時代や環境の影響を受けて生きている」で、これは、課題レポートの学びにもみられたが、学びを得た学生数が6名から13名と増えていた。同じく、「人の独自性について」の学びを得た学生数も、課題レポートでは、「人はこの世に二つとない固有の人生を歩んでいる」2名であったが、感想メモでは10名と著しく増えていた。課題レポートにみられなかった学びとして、「人の価値観について」があり、時代や環境・生活が、個人の価値観に影響することに気づいていた。他に、「人は困難を乗り越える力を持っている」がみられ、人間の可能性やたくましさを感じとっていた。

少数ではあるが、「3. 対象理解と信頼関係とのかかわりについて」7件7名、「4. 援助者としての自分への影響」13件12名が抽出された。前者は、対象理解の深まりが、信頼関係形成と関連することを感じたもの、後者は、対象理解の深まりが、援助者自身の対象の見方を変化させたり、成長につながると感じたものであった。

V. 考察

得られた学びについて、1. 授業目標とのかかわり、2. 聞きとり体験したからこそ得られた学びについて、分けて考察する。

1. 授業目標とのかかわりからみた学び

1) 「生活している人としてみること」について学んだこと

課題レポートと感想メモの両者に、「人は時代や環境の影響を受けて生きている」がみられ、学生は、個人の生活が時代や環境の影響下にあることを実感したと考える。また、課題レポートに、「対象者の行動や考え方の背景に過去の体験がある」「不幸や困難を受けとめ、乗り越えてきたから、今のその人がある」、感想メモに、「いろんな経験や努力を積み重ねて、今のその人がある」「人は過去からの連続性をもつ存在である」「人の価値観について」の学びがみられ、過去の積み重ねの上に今のその人があることを実感したと考える。これらの学びは、生活している人として対象を捉える時に、不可欠な人間の見方を含むと考える。

表3 課題レポートにみる学生の学び

項 目	件数	人数
1. 面接対象者に関すること	49	43
1) 対象者はすごい・素晴らしい	14	14
今の自分と同じ年で独立しておりすごい。好きなことを納得するまでやってきた父はすごい。対象は自分よりずっと長く生きて、多くの経験をつんでいることに気づき、尊敬の念を感じた。謙虚な心を感じ、それをとても素晴らしいと思った。		
2) 時代や環境が対象者の人生に影響する	11	9
(1) 子供の頃の家庭環境や生活体験からの影響	4	4
(2) 周囲の人々やいろんな状況からの影響	2	2
(3) 結婚による変化	3	3
(4) 戦争の影響	2	1
3) 対象者の生きてきた時代と今の社会との違い	7	7
彼の生きてきた時代は、私の時代とは全く違う。社会や時代がこんなにも違うものかと衝撃を受けた。考え方や価値観が現代とずいぶん違う。昔の子供は働き手、働きながら学校に通うことはあたりまえだった。		
4) 対象者の新たな一面の発見	6	6
昔の事を聞くことにより、相手の新たな一面を発見できた。意外な経歴があることがわかった。今まで知らなかった母の想いがわかった。自分の母親なのにたくさん新しい発見があった。		
5) 対象者の行動や考え方の背景には過去の体験がある	6	6
自分自身や夫・娘の入院経験により、健康の大切さを身にしみて感じていることがわかった。祖父の生き様を聞くことによって、祖父がお金や食べ物、目上の人への態度に厳しい理由がわかった。		
6) 不幸や困難を受けとめ、乗り越えてきたから、今のその人がある	5	5
不幸や困難をしっかりと乗り越えてきたからこそ、今の生活や対象の精神があるのだ。戦争など辛いことが多くあったが、それを運命として受け止めて人生を懸命に生きてきた。だからこそ、今日の彼女がある。		
2. 人間一般に関すること	29	22
1) 人は年を重ねることにより成長していく	7	6
いろんなライフステージを踏むことで、心身ともに成長していく。環境や立場が変わっていく中で、人は変化したり成長していく。長い人生の中でいろんな経験をしたからこそ得られるものがあると感じた。		
2) これまでの人生がその人の考え方やあり方に影響する	7	6
人生の違いから、一人ひとりの価値観に違いが生じるのだ。過去のいろんなことを積み重ねていって、人間の性格や考えは形成される。人生の節目節目で生き方や考え方が違ってくる。		
3) 人は時代や環境の影響を受けて生きている	6	6
人の生活には、その生きてきた時代や周りの状況が大きく影響している。人間はその時代や周囲の人々に影響されて生きていく。		
4) 戦争を体験した世代に関すること	5	4
戦時中に生きてきた人達は、辛く悲しい体験をしている。日本を一から立て直したのは、この世代の人達だ。		
5) 人はこの世に二つとない固有の人生を歩んでいる	2	2
6) 人はそれぞれの人生を懸命に生きている	2	2
3. 援助に関すること	16	16
1) 固有の人生を歩む人として尊重する	3	3
2) 今だけでなく、過去を知ることの大切さ	3	3
3) 生活歴を把握する意義	3	3
その人の価値観を理解するよい方法だ。人生を聞くことによって、その人の見方が変わってくる。自然と対象者を敬い、素敵な看護ができると思った。		
4) 生活歴の聞き方に関する気づき	3	3
5) 話を聴くことの必要性	2	2
6) 人を外見で判断してはいけない	1	1
7) どこまで踏み込んでいいのか戸惑った	1	1
4. 学生自身への影響	13	12
1) 他者の生活歴を聞くことで、今後の自分の生き方を考えた	6	6
2) 今後の自分の人生への示唆を得た	4	4
3) 自分は恵まれている・甘えている	3	3
合 計	107	76

表4 授業直後の感想メモにみる学生の学び

項 目	件数	人数
1. 対象理解の方法に関すること	50	43
1) 対象を受け入れ、尊重する	13	11
(1)人を外見で判断してはいけない	4	4
(2)自分の価値観や枠を基準にしてはいけない	4	4
自分の先入観や思い込みを捨てて、その人と向かい合うことが大切だ。自分なりにその人の心を感じ取ることだ。その人の立場になって話を聞くことが大切だ。		
(3)自分の視野を広げたい	3	3
(4)対象の価値観を尊重する	2	2
2) 生活歴を把握する意義について	11	10
(1)対象の新たな一面が発見できる	7	7
(2)対象の行動や価値観が理解しやすくなる	4	4
(3)それまでの人生を知ることによって、その人の可能性を見つける糸口になる	1	1
3) 理解しようとする姿勢、対象の立場になる	7	7
理解しようとする、その人に注目することが必要だ。自分なりにその人の心を感じ取ることだ。その人の立場になって話を聞くことが大切だ。		
4) 対象が生きてきた時代や環境を知る	6	6
人を理解するには、時代背景や育った環境などを含めて考えなければならない。どのような家庭環境・生活環境で育ったかを知ることが大切だ。その人が過ごしていた時代の考え方や見方を知る必要がある。		
5) 今だけを見るのではなく、これまでの過程を知る	4	4
6) 人の行動・価値観・考え方の裏にある人生体験を知る	4	4
7) 過去の体験やその時の思いを知る	3	3
8) 対象の価値観や信念を知る	2	2
2. 援助の対象である人について	37	34
1) 人は時代や環境の影響を受けて生きている	13	13
人生は、時代や環境・家族などの影響を受けていて、様々に変化していく。時代の流れが人に大きな影響を与える。同年齢の人でも、その人の生活は環境に強く左右される。		
2) 人の独自性について	10	10
(1)人はそれぞれ、様々な生き方をしている	5	5
(2)他者は自分とは全く違うものである	2	2
(3)それぞれ生き方が違うから考え方も違う	2	2
(4)現時点だけでなく、過去も含めて同じでない	1	1
3) 人の価値観について	6	6
(1)時代や環境によって人の価値観は変化する	2	2
(2)人の価値観は人生の歩みの中でつくられる	2	2
(3)人の生き方や価値観には、これまでの生活が反映している	2	2
4) いろんな経験や努力を積み重ねて、今のその人がある	3	3
5) 人は困難を乗り越える力を持っている	3	3
6) 人は過去からの連続性をもつ存在である	2	2
3. 対象理解と信頼関係とのかかわりについて	7	7
1) 生活歴を知ること、対象に一步近づける	4	4
2) 信頼関係がなければ人生について語れない	3	3
4. 援助者としての自分への影響	13	12
1) 対象理解の深まりによって、その人への感情や見方が変わる	8	8
人を深く理解することによって、その人を尊敬する気持ちが出てきたりして、自分のその人への見方が変わる。その人に対する感情が今までとは違ってきて、尊敬できるし、良い意味で見方が変わった。		
2) 人を理解することにより自分も成長できる	5	5
人を理解しようすると、自分との違いに気づき、自分を理解することにもつながる。人の生き方を知ること、自分の生き方や生活も深く考えることができる。		
5. 対象理解の難しさ・大変さ	17	15
1) 人を本当に理解することは難しい	8	8
本当にその人を理解することは難しい。戦争の話は頭ではわかっていても体ではわからないから、その人の本当の気持ちとか感情を理解することは難しいと思った。		
2) どこまで踏み込むべきかの判断の難しさ	5	5
3) どのように聞けばよいかわからない	2	2
4) 人を理解することの重さ	2	2
合 計	124	75

2) 「人を可能性や力をもつ存在としてみることに
ついて学んだこと

課題レポートに、「対象者はすごい、素晴らしい」「人は年を重ねることにより成長していく」「人はそれぞれの人生を、懸命に生きている」、感想メモに、「人は困難を乗り越える力を持っている」の学びがみられ、人間の力や輝き、生きることの尊さ、人間のもつ可能性を感じとることができたと考える。これらの学びは、援助の対象を価値ある人として捉えるための基盤となる、人間への感情であると考ええる。

2. 聞きとり体験したからこそ得られた学び

学生が面接した相手は、続柄不明を除くと、父母・祖父母など身内が多く、心情的にも身近な人々であった。しかし、生活歴を聞くことによって、課題レポートに、「固有の人生を歩んでいる」、感想メモに、「自分とは全く違うもの」「人はそれぞれ、様々な生き方をしている」がみられ、「人の独自性」を再認識し、「生活歴を把握する意義」を実感していた。これは、学生の身近な人から話を聞いたことや、体験を報告しあうグループワークを実施したことが、効を奏したと考える。課題レポートに、「固有の人生を歩む人として尊重する」「話を聴くことの必要性」、感想メモに、「自分の価値観や枠を基準にしてはいけない」「自分の視野を広げたい」「理解しようとする姿勢、対象の立場になる」、両者に、「人を外見で判断してはいけない」がみられ、援助者の基本的な態度や姿勢につながる学びを得ていた。感想メモに、「対象理解と信頼関係とのかかわり」がみられ、対象者との関係性が対象理解に影響することを感じとっていた。これらの学びは、対象理解をめざして学生が具体的な努力をし、対象と相互作用したからこそ得られたものと考ええる。

VI. まとめ

「生活歴の聞きとり体験」を素材にした授業による、対象理解に関する学生の学びを整理した。

1. 学生は、個人の生活が時代や環境の影響下にあること、過去の積み重ねの上に今のその人があることを学んでいた。これらの学びは、生活者として対象を捉える時に、不可欠な人間の見方を含むと考える。
2. 学生は、人間のもつ力や可能性、生きることの尊さを感じとっていた。これらの学びは、対象を価値あ

る人として捉えるための基盤となる、人間への感情であると考ええる。

3. 学生は、援助者に求められる基本的な態度や姿勢、対象者との関係性が対象理解に影響することを学んでいた。これらの学びは、聞きとり体験をしたからこそ得られたと考えられた。

引用・参考文献

- 1) Joyce Travelbee : Interpersonal Aspects of Nursing, 1971, 長谷川浩訳, 人間対人間の看護; 33-34, 医学書院, 2000.
- 2) 井上幸子他: 看護における人間理解, 看護学大系1 看護とは [1], 2版; 36-45, 日本看護協会出版会, 1996.
- 3) 水主千鶴子: 高齢者の詩を用いた対象理解に関する研究, 日本看護学教育学会第11回学術集会講演集; 105, 日本看護学教育学会, 2001.
- 4) 田畑邦治: 情意教育の意味と可能性をめぐって, 看護展望, 18(8); 22-26, 1993.

(受稿日 平成14年2月12日)